任 教 頭 雑 感

「見切り発車の是非」

龍郷町立戸口小学校 教頭 原田真一

的で、校区全体で子どもを 育でるという風土がある。 の人たちも学校運営に協力 キュウアユが生息する自然 かなところにある。地域 に絶滅危惧種のリュウ

けた。 月第二週、ある保護者から うという恐れから即答を避 と職場に迷惑をかけてしま ŋ 頼があった。いずれは携わ 「バレー少年団の指導をお願 いできませんか。」という依 仕事に悪戦苦闘していた四 新任教頭として目の前の れない仕事に対する不安 たいと思っていたものの,

てみよう。どうしても無理 らないけど、とりあえずやっ 承諾を得て見切り発車をし な性格の私は、校長と妻の た。「やれるかどうかは分か しかし、 生来単純

> も似たようなことを考えるという決断をする時に (正直に言うと、教頭にな が私の中にあるようだ。 は分からないという考え みないとできるかどうか しれない。でも、やって とても無責任な態度かも な気持ちだった。それは, その時に考えよう。」そん な状況になったら、

言った。 今は亡き母が私にこう 中で断念した。その時, ことに挑戦したものの途 二十代前半、 私はある

らの日々を大切に過ごし ていきたい。そして,校 発車が間違いじゃなかっ 成長していきたい。 感謝しながら教頭として えられていることに深く 理解と協力、頑張りに支 長をはじめ職員の寛大な たと思えるようにこれか いの。」と。今回の見切り 生き方で決まるんじゃな かどうかは、これからの 「その決断が正しかった

西之 <u>の</u> 地で」

南種子町立西野小学校 遠矢 周一郎

には、地域の方方もお手伝た、引っ越しの荷入れの際 とを覚えている。 で胸がいっぱいになったこ 安が消え、心地よい気持ち と言葉を交わすうちに、不 もたちや保護者、地域の方々 の方々が来られていた。ま さんの子どもたちや保護者 リーを降りた港には、たく した。不安な気持ちでフェ いに来てくださった。子ど 町立西野小学校に赴任 頭として南

地区にある。教育活動には、 に囲まれた自然豊かな西之に位置し、青い空と碧い海 科学が融合する、すばらし 数回実施されるロケットの 置付けられていたり、年に 伝統芸能の「棒踊り」が位 まさに、

歴史や伝統と

最新 学することができたりする。 打ち上げを学校近くから見 本校は、 種子島の最南端

> ら。」「新しい学校ができあ 動いてくださる西之の皆さ・ たい。」「子どもたちのために、 校のために、何でもするか ど、様々な段取りに追われて 自分が赴任する前から設計・ いっぱいである。 ん。本当に感謝の気持ちで・ピットに入ることができ、 できることをするが。」と、 がったことを、みんなで祝い 力添えに支えられている。「学 うときに地域の方々の熱意や になることもあるが、そうい いる。「大丈夫かな。」と不安 祝賀会」に向けての話合いな 校お披露目会」や「落成記念 う新校舎への引越作業や「学 校舎が落成された。それに伴 建設が進み、本年度の夏に新 学校へ赴任して、まず直面し このような伝統ある西野

ながりを紡いでいきたい。 い。そして、西之との太いつ・ 果たせるよう力を尽くした・ の地で、子どもたちや保護者、 ていない。しかし、この西之

随 想

生校 か区 すの X IJ ッ -

私 が産まれ育った のは

鹿児島市立城南小学校

大島郡笠利町(現奄

市

ながら、教頭としての役割を・とがあると、ついつい屋上 地域の方々の思いを大切にし、たが、今でも空港に行くこ 割を十分に果たすことができ。「パイロットになりたい」と まだまだ、教頭としての役。とがある。この経験が後の めながら大空に思いを馳 まで足を運び、飛行機を眺 おかげで小学校時代に何の いう自分の夢につながって 操縦席に座らせて頂いたこ 国産旅客機YS11のコク 学習だったかは忘れたが、 に近かったということだ。 のはどこの小学校より空港 にある節田小学校校区。 いる。実際、夢は叶わなかっ いちばん記憶に残っている その母校での出来事で、

南種子町には、 子町の西野小学校だった。 教頭職のスタートは南種 言うまでも

ている。

たことは言うに及ばない。 きた。宇宙に関わる仕事がし 空振と轟音を楽しむことがで 場所へ移動して、遅れて来る てみたいという子供たちがい トップし、打ち上げの見える なく種子島宇宙センターがあ 年に数回ある打ち上げの 時刻によっては授業をス

声が聞かれた。 希望者は年々増えている。参 望者だけの参加ではあるが、 甲突川でカヌー大会を行って 得て、三年前から地域の川、 や来年も挑戦したい、などの ぎきることができてよかった 加した児童からは最後まで漕 区まちづくり協議会の協力を 低さが課題となっている。校 いる。今は、五・六年生の希 は、子供たちの自己肯定感の 現在、勤務している学校で

うです。

ちに還元するかが私たちの課 ある。その素地をどう子供た はの子供たちを育てる素地が 地域には、その地域ならで

「子どもに寄り添う

いちき串木野市立 串木野小学校 中島 清昌

ります。 できているかな、その時間 に子どもに寄り添うことが ですが、今の学校は、本当 くことはとても大切なこと もって接し、寄り添ってい その子どもたちに、愛情を があるかなと思うことがあ な環境の中で育っています。 子どもたちは、いろいろ

くなっていないかなと思う どもたちには寄り添いが薄 さず、あまり目立たない子 普段おとなしく問題を起こ もたちには、よく気にかけ 行動が目立ったりする子ど て接しています。反対に、 ときもあります。 問題行動を起こしたり、

ら発信しない子を見落とし あるような気がします。自 も、黙って我慢することが や悩んでいることがあって てしまいがちだと思います。 活の中で、 担任の先生方に言えない 子どもたちは、 困っていること 日々の

> と家庭のこと様々なことで悩 帰っていく子どもたちがいま げると、すっきりした顔で ます。先生方が話を聴いてあ と訴えてくる子どもたちがい 教室の先生方に聴いて下さい 専科、特別支援学級、学びの んでいますが、その根底には、 す。友達との関係や勉強のこ ことを養護教諭だけでなく、

できると考えています いろいろな子どもたちに寄り・ チームで対応することで、・と言っていた。

自 由投稿

出水市立高尾野小学校

教頭 東

「長幼有序_

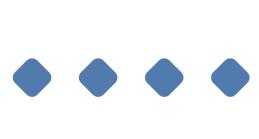
しゃべると、すっきりするよ・えるという営みの中でしか 分の思いや悩み不満などを・てたい。人に直接何かを教 自分のことをもっと知ってほ。も城は壊れてしまったが、 す。多くの子どもたちは、自・て、若い人に技術を伝え育 しいという思いがあるようで・修復というこの仕事を通し ・いる石工の一人が「不幸に 伝えられないものがある。」 熊本城の修復に携わって

添うことができると思いま。城の大天守が修復され、外 や現象を早期に発見でき解決・程遠い。三年前の痛々しかっ す。寄り添う教育ができると・観が公開された。まだ中に いじめや不登校に繋がる原因。は入れず、全ての完成には を作ったことがある人はい 術力の高さに感心した。城 わる石工や大工、左官の技 初々しい。改めて修復に携 喰の施された白い外観が 技と、災害に耐え得る新た れてきた当代と同じ伝統の 講じて元通りにしていくの 掛かりに、あらゆる手段を た熊本城の少ない情報を手 ないのである。先人が作っ た姿を思えば、屋根瓦に漆 である。先輩から引き継が 令和元年十月五日、熊本

> いる。 新しい城が着々と形作られて なテクノロジーが融合された

補い、課題や困難を克服して り、AIやビッグデータには ではIoTで人と人がつなが 多くの情報が蓄積され、人が いくだろう。 行う能力の限界をロボットが 近未来の「Society 5.0」

「やってみせ、言って聞かせ を、長の手から幼の手へ渡し れからも教育の不易なるもの ねば、人は動かじ。」の山本 である。冒頭の石工の言葉に、 ていかなければならない。 五十六の格言が重なった。こ て、させてみせ、ほめてやら 人前で教えられ育っていくの しかし、いつの時代も人は





故郷への思いを豊かに」

霧島市立日当山小学校

田当山温泉郷のど真ん中に おります。そのため、日常的に親 な存在であり、日常的に親 な存在であり、日常的に親 ら 当山の子どもたちが地域の の 自慢を問われたときは、真っ な 自慢を問われたときは、真っ るはずです。

げて子どもたちは地域の素 ど、いろいろなテーマを掲 そこで働く人たちの願いな まさに

日当山で

しか成立し ズバリ「浴育」学習です。 を 総合的な学習の時間に題材 材に向き合っていきます。 日当山温泉の歴史や効能、 ない学習です。「浴育」では の一つとして設定し、 ですが、本校では三年生の さて、そんな日当山を象 進めています。その名も する存在である「温泉」 学習

「温泉」について新たな気づもたちは身近な存在である、この浴育を通して、子ど

た「温泉」をきっかけにして、た「温泉」をきっかけにして、地域の様々な人と出会いが、す。地域家材をもとに、地域でやな人たちとの出会いが、様々な人たちとの出会いが、様々な人だちの故郷への深い理がされたのながると私は確信して、います。

こうした地域に根差した教育 に取り組むことが、故郷 にながっていきます。 の」という言葉があります。 でいきます。 でいがっていきます。 でいがっていきます。 でいがっていきます。 でいがっていきます。 でいがっていきます。 でいがっていきます。 でいが、地域の未来を確かなもの

私の勧める一冊の

西郷南州遺訓

発行所 至知出版現代語訳 桑畑正樹

はなせ、阿耶隆路翁、从田児島市立武中学校

・新後百五十年以上経った今の念の強さである。明治維め、方々の南州翁に対する畏敬いないかとさえ思える山形のとは、鹿児島県民以上では ど四十年以上も交流が続い親善使節団を派遣し合うな 「徳の交わり」を縁として、 5 弟校の盟約を結び、 山形県鶴岡第二中学校と兄 藩士であった菅実秀翁の であったかを改めて思 れる南州翁がいかに大人物 日まで、 の関わりを通して感じるこ ている。私が、その交流へ の山形県鶴岡市と酒田 下、南州翁)と荘内(現在本校は、西郷隆盛翁(以 される。 相互に 親しま

を受けた元荘内藩士達が、た西郷屋敷を訪問し、教えなく、維新後、武町にあっから自ら記されたものではれて西郷南州遺訓」は、南た「西郷南州遺訓」は、南田治二十三年に発行され

南州 銀光後は教えの内容を南州銀光後は教育・組織等について南州る。読み進むにつれ南州翁の番土達の一言も漏らさぬ内藩士達の一言も漏らさぬ内藩士達の一言も漏らさぬ人の揺るぎない信念や、元荘のがった純粋に学ぶ姿勢がといった純粋に学ぶ姿勢がといった純粋に学ぶ姿勢ががのが、また、本書では、原くる。また、本書では、原外の教えが分かり易く解析翁の教えが分かり易く解説されている。

「人は言葉によって励まされ勇気をもらう。」 され勇気をもらう。」 おらも、様々な名言や格言からも、様々な名言や格言を出会い (探し)、自らをと出会い (探し)、自のをと出会い (ない)、自のをはない。

本書の原文は、明治維新本書の原文は、明治維新の頃の古い時代のものであるが、変化の激しい今日、人として、そして、迷いが大として、そして、迷いが大として、そして、迷いがもなる時代においても変生じがちな教頭にとって、せいがちなる時代においても変やる。

『ノーサイド・ゲーム』

(ダイヤモンド出版)著者 池井戸 潤

自於市立檍小学校 中華

した。日本代表の戦い、そカップ初のベスト8に熱狂 こには、「ONE したいと思います。 熱くなったこの一冊を紹 プと同じように胸も目頭も れ、ラグビーワー と なった令 その約三か月前に発売さ いう姿が確かに は、ラグビーワー TEAM」 ルドカッ あった。 日本列 ルド けと

称からも分かるようにラグ 称からも分かるようにラグ だーに関する物語であり、 どーに関する物語であり、 が、ラグビーの専門用語は が、ラグビーの専門用語は が、ラグビーの専門用語は が、ラグビーファン (ラグビーファ となっていたラグビーファ ないので、私のようなに なり、チームを立て直して なり、チームを立て直して なり、チームを立て直して なり、チームを立て直して



す。